

Clinical Question 3

軟部組織モビライゼーションなどの徒手的治疗法は推奨できるか

**推奨** 上腕骨外側上顆炎患者に対する徒手的治疗法は、条件付きで推奨する。

推奨の条件；あり

- ・患部に直接触れない手技から選択して実施する。
- ・短期的効果が期待される場合に実施する。

推奨の強さ：当該介入を条件付きで推奨する

エビデンスの強さ：弱

作成グループ投票結果

当該介入に反対する強い推奨	当該介入に反対する条件付き推奨	当該介入・対照双方に対する条件付き推奨	当該介入の条件付き推奨	当該介入の強い推奨	推奨なし
11% 1名	0% 0名	11% 1名	78% 7名	0% 0名	0% 0名

◆CQの構成要素 (PICO)

P (Patients、Problem、Population)			
性別	指定なし	年齢	20歳以上
疾患・病態	上腕骨外側上顆炎の診断を受けた者	その他	手術療法・ステロイド注射治療の併用するものは除外
I (Interventions) / C (Comparisons、Controls、Comparators) のリスト			
徒手理学療法／介入なし、プラセボ、従来の理学療法			
O (Outcomes) のリスト			
Outcome の内容			
O1	疼痛		
O2	握力		
O3	機能評価		
O4			
O5			

解説

◆CQの背景

疼痛が遷延する場合は筋力低下、ADLのみならず職業上の作業にも支障を来すことが考えられる。このため疼痛をコントロールすることは重要であり、これに対するアプローチとして徒手的治疗法が一般的にも行われている。Cyriaxが1936年に腱に対するフリクションマッサージを提唱して以来、多く行われる治療の1つになっている。その後、MulliganのMWM (Mobilization with movement)、筋膜リリースなどいくつかの治療手技についても報告されている。しかしながらこれらの徒手的治疗法に関するエビデンスが十分とは言えないことから、この点について検証する必要がある。

◆エビデンスの評価

重要なアウトカムである疼痛においては筋膜リリース、フリクションマッサージ、MulliganのMWMは短期(3か月以内)で改善した<sup>1・2)</sup>。

握力においては筋膜リリース、MulliganのMWM、フリクションマッサージは短期(3か月以内)、中期(3~6か月)で改善が見られた<sup>1・3)</sup>。

PRFEQ (Patient-Related Forearm Evaluation Questionnaire) を使用した機能評価において Mulligan の MWM はフリクションマッサージおよび超音波療法よりも短期、および中期で改善が見られた<sup>2)</sup>。また、DASH を使用した機能評価においてマッスルエナジーが中期で改善が見られた<sup>4)</sup>。

いずれの指標における研究でも症例数が多くはないこと、症状の観察期間により治療成績も異なることよりエビデンス

の強さは弱いと判断した。

#### ◆益と害のバランス評価

短期的にという条件付きだが、疼痛の軽減、握力の回復および機能回復に貢献する可能性が考えられる。有害事象に関する報告はなかった。このようなことからおそらく介入側を支持すると判断した。

#### ◆患者の価値観・希望

徒手的治疗法の技術習得は治療者個人の自主性に委ねられている。このため患者は受診する施設もしくは治療者を選択する必要があることから、この点に関して情報提供できる環境が望まれる。

また疼痛が激しい場合、治療者は患部に直接触れるのではなく、筋の走行などを考慮して患部外の治療から始めた方がリスク管理上、安心・安全である。

#### ◆コストの評価

徒手的治疗法の施行は、保険診療内のコストが発生する。一方で、徒手的治疗の施行による治療機関の短縮は示されておらず、コストの削減は期待できない。

#### ◆文献・検索式は Web 掲載 <http://>

- 1) P. Ratan Khuman, et al : Myofascial release technique in chronic lateral epicondylitis: a randomized controlled study. Int J Health Sci Res . 2013 ; 3 : 45-52
- 2) Pooja Bhardwaj, et al : The relative efficacy of mobilization with movement versus Cyriax physiotherapy in the treatment of lateral epicondylitis. Indian J Physiother Occup Ther. 2011 ; 5 : 142-146
- 3) Amit V. Nagrale, et al : Cyriax physiotherapy versus phonophoresis with supervised exercise in subjects with lateral epicondylalgia: a randomized clinical trial. J Man Manip Ther. 2009 ; 17 : 171-178
- 4) Sami Küc, üks, en, et al : Muscle energy technique versus corticosteroid injection for management of chronic lateral epicondylitis: randomized controlled trial with 1-year follow-up. Arch Phys Med Rehabil. 2003 ; 94 : 2068-2074